

「水曜サロン with 赤堀会長」第4期 第9回（通算54回）

教科横断的な学びとカリキュラム・マネジメント

1. 内容

- ・教育課程の基準の改訂
- ・主体的・対話的で深い学び
- ・資質・能力を育成するカリキュラム・マネジメント

2. 所感

まずは国内の高校でダントツに素晴らしいと考えていらっしゃる授業実践を紹介いただきました。福井県の敦賀高校。地理と化学、若手先生とベテラン先生のコラボ、横断探求の授業です。キーワードを並べると、G7サミットでも使われた昆布だしの地元昆布屋さん、UMAMIという日本の食文化、化学としてはアミノ酸、そして地元敦賀の地理。少しご紹介しますと、敦賀産の出汁と一般の出汁をテイastingして比較すると確かに色も味も違う。実験でうまみ成分であるアミノ酸の量が違うことが分かる。その違いはなぜ生じるのか。実は敦賀の地理的な特徴からで、冬に京の都に運びにくい地形で、冬の間、地元においておくことで発酵が生まれ、優れたうまみ出汁となり、昆布屋さんが繁盛したという展開。この授業では、生徒が楽しそうで真剣で本気で学びに向かっている様子が伺えたということです。結果的には、化学と地理の教科の枠も超えていますね、凄い。

次にこのような素晴らしい授業を展開するには、授業改善とカリキュラム・マネジメントの両輪で、本日はカリキュラム・マネジメントの充実にフォーカスされていました。トップだけではなくみんななどでいった組織的配列、PDCAを回す、外部含めた資源の活用などターゲットが広がっているとのことでした。その中で単元配列表は興味深いものでした。これがあると総合的学びを検討しやすいだろうと思いました。

意見交換では、その単元配列表について、すべてを網羅するのではなくフォーカスするのがポイント。小学校はやりやすいが、中学・高校はどうすればよいか、実態としては、教科での探求から実践していこうということもある。これについては、個人的な見解ですが、企業では、コンサルがはいったり、PMO（プロジェクトマネジメントオフィス）担当者を配置したり、わかりやすいところでいえば総合プロデューサー的な仕事として人財がいると充実するだろうと思いました。ベストは外部専門人財ですが、学校の中で得意な人、興味ありそうな人を見つけ指名する、生徒とテーマ・コンテンツ検討するなどの工夫でもよいと考えました。また、教科横断は専門性が高いほうが設計しやすい、効果が得やすいのではないかという意見も出ました。専門性をたかめながら全体を俯瞰できる人財の育成にもつながりますね。コンピテンシーとコンテンツでは、最初の事例に見られるようにコンテンツとしての魅力も重要だろうと考えました。本当に充実した1時間となりました。

田村先生、本日は、本当にありがとうございました。

以上